

こすげ冒険学校再開に向けての準備および感染対策下での活動記録 佐伯順弘 自然文化誌研究会

Preparation to Reopening of Kosuge Adventure School and Recording on Activities
under the Infection Prevention Measures

Yorihiro SAEKI, The Institute of Natural and Cultural History

1. はじめに

この文章は NPO 法人自然文化誌研究会主催の環境教育プログラム（むらまつりキャンプ 5 月，こすげ冒険学校 8 月，まふゆのキャンプ 12 月）の中止と再開に向けての準備及び実施の記録をまとめたものである。

2019 年 12 月 covid-19 による感染症が中国武漢市において発生し，それほど間を置くことなく日本にも広がった。その頃，自然文化誌研究会では「まふゆのキャンプ」と題した環境教育プログラムを小学 3 年生から高校 3 年生を対象に開催しており。スタッフとして，自然文化誌研究会 OB，冒険探検部 OB，東京学芸大学学部生，院生，関東の大学生が参加し，学生に対する研修の意味合いも持たせていた。「まふゆのキャンプ」は無事終了したものの，年明けから，新型コロナウイルス感染症はパンデミック的な広がりを見せ，その影響から 2020 年 5 月に行われるはずだった「むらまつりキャンプ」，8 月に行われるはずだった「こすげ冒険学校」が相次いで中止となった。感染の終息が見通せない中，このままでは自然文化誌研究会の野外活動技術の継承そのものが危うくなると考えた。そこで，2 回のスタッフ研修会を経て，感染対策をとった上での環境教育プログラムの再開を決定し，2021 夏，2021 冬に実施した。

2. 第 1 回冒険学校スタッフ研修会計画

(1)主催 NPO 法人自然文化誌研究会

(2)目的

- ①新型コロナウイルスなどの感染症の対策をした上でのキャンプをすることで，その有効性を確認する。
- ②感染対策をしたキャンプを実施し，今後もこの状況が続く場合のキャンプ再開への足掛かりとする。
- ③冬のこすげキャンプを体感し，経験値を上げる，勘が鈍らないようにする。
- ④自然文化誌研究会・冒険学校の灯を絶やさない！！

(3)期日

2020 年 12 月 26 日(土)昼頃に集合 ～ 28
(月) 昼頃に解散の 2 泊 3 日

(4)参加者

佐伯順弘、贅田隼人、宮坂朋彦

(5)役割分担

- ①研修統括、衛生・保健、工作、食事補助（佐伯）
- ②事務局（黒澤）
- ③食事（贅田，宮坂）

(6)感染対策準備：事前にグループ LINE で必要事項を決めて当日に臨む。

(7)プログラムとスケジュール：やはりグループ LINE で相談。

(8)費用：各自交通費のみ自己負担。小菅滞在中の費用は自然文化誌研究会より

(9)中止の判断：感染状況により、直前でも（勇気をもって）中止の判断をする。

(10)やりたいこと：燻製，ロープワーク，竹を使った工作

(11)感染対策：基本生活

・食事

（作る場面で）徹底することは、①一層の手洗い及び消毒、②担当者の固定、③手づかみで食べないメニュー

（食べる場面で）徹底することは、①丁寧な手洗い→手拭→消毒。②離れて食べること、③食事を受け取るときの感染防御。（マスク、事前消毒、接触回避）

（片付ける場面で）今までの冒険学校のように個別で行う。加えて離れて作業する。

（拭き取り，消毒）

・就寝

就寝問題は、どの程度のディスタンスで何人分確保できるのか要検討。

→ログハウス内に一人用テントが入るなら入るだけ。常に換気が必要。

→外なら問題なし。1人1テントは厳守。

→1人で寝られること、健康管理のため一人静かな時間を過ごせることが参加の最低限の条件になってきますね。（他のテントに入り込んで騒ぐなど論外。）

・トイレ

消毒回数を増やす

流すときは必ずふたを閉めてから流すこと。

（便の中にウイルスが入っている恐れあり。飛散を避けるためだと各学校へ指導がきていることが根拠）

・保健

毎食事前に非接触で体温測定

(12)感染対策：プログラム

・マスク厳守。活動前後の消毒。1～2mのディスタンスを基本にできることを検討

・ログハウス内でトランプは困難かな。囲

炉裏も4人定員。焚き火は複数拠点を作り、人数減らすこと距離を確保。

・実際の参加者を集める現場で考えることで見えてくるものもある。

3. 第1回冒険学校スタッフ研修会実施記録より

2020.12.26～28 小菅村にて実施

活動再開のための感染予防について

（生活面）

①衣

・マスクの着用と定期的な交換の徹底。使用済みマスク焼却。（要検討）マスク着用により活動しにくい活動の有無、マスク交換の時機

・使い捨てマスクを基本とする（布マスクをきちんと洗える環境ではないため）

・検温と観察の徹底（注意点）非接触測定器は低気温の場合反応不良。朝夕は各自用意した体温計にて測定

②食

・メニューは配膳簡略化のため、品数を減らす。

・片付け迅速化のため、今まで以上にコップの汚れにくいメニューを意識

・おかわりも食事担当が実施

・残飯削減のため、少な目に設定し、補食を用意

・おやつはなるべく密にならないメニューを工夫

・一定人数に一人スタッフが付き、感染対策の徹底を見届け（手洗いの徹底、検温、食器準備、密集回避、食事場所の確保、片付け）

・片付けは複数個所にアルコールやお湯を用意して密集回避

・手をふくためのペーパータオル設置

・食器共用不可。管理場所は密集回避、取り違え回避のための収納場所を設置

・調理に子どもの関与禁止、調理スタッフ

の限定、手袋着用必須

・水分補給、各自の水筒、補給はスタッフが担当

③住

・個人用テント使用
・スタッフは入れ替わりの際に消毒作業
・ログハウスはスタッフ使用と着替えスペースに固定2. プログラム面

(プログラム面)

①川遊び

・密集を避け、普段通り遊ばせる。(観察者を配置)
・免疫力低下を防ぐために、遊びすぎないように助言
・ドラム缶風呂増設
・着替えスペースを指定し、人数を制限。
消毒を徹底。

②工作

・道具の消毒
・道具や材料の貸し借りの制限。
・作業スペースの確保。
(発熱などへの対応)
・前提として、例年以上に「遊びすぎない」「遅くまで起きない」を徹底。免疫力低下や疲労による発熱を予防
・37.5度以下の発熱の場合(その他の症状がないかを確認、簡易隔離をして経過観察)
・37.5度以上の発熱あるいは平熱より1.5度以上高い場合(本人がだるさをどの程度感じているか、その他の症状はないかを確認し、隔離観察。基本は最悪を想定して対応、その他の参加者の一斉検温、体調確認、濃厚接触していた子の簡易隔離。キャンプ場全体の消毒)
・元気だが体温だけ高い場合、一旦隔離、休ませて検温、すぐに下がれば活動復帰。二時間以内に下がらなければ発熱として対応。

(その他)

・「保健係」の他に、場内消毒をする「衛生係」の設置

・キャンプ場内でのトランプや密になっての遊びを避けるため、プログラムの充実
・学生スタッフの動員に力を入れる、研修キャンプの開催が必須。

4. 第2回冒険学校スタッフ研修会計画

(1)主催 NPO 法人自然文化誌研究会

(2)目的

むらまつりキャンプを実施したい思いはあるが、下記の理由から通常キャンプは実施できない。しかし、スタッフのみの研修・作業キャンプならば、実施可能だと考える。
・現時点で新型コロナウイルス感染症が落ち着いていると判断できる材料がない。それどころか、変異株、緊急事態宣言の反動などの影響で拡大傾向にある。

・スタッフが参加者(子ども)とともにキャンプをすることになれていないので、対応に不安がある。

・スタッフの意思統一(環境教育について、指導者として、感染症対策について等)が十分なされていない上、訓練も積んでいない。

・科学的に妥当であろうと思われる防御を確実に実施すれば、野外活動をすることで感染拡大が起こることは考えにくい。

・夏の冒険学校に向けて、上記の問題を解決するために、また経験値を高めるために研修を継続することが団体として必要である。

上記を踏まえ、感染症対策を実践することを目的として研修キャンプを実施する。

(3)期日

2021年5月3日(月)～5(水) 2泊3日

(4)対コロナ留意事項(感染予防について)

第1回冒険学校スタッフ研修会で確認した活動再開のための感染予防を徹底する。

(5) 日程

5月3日(月)

1230 研修①オリエンテーション 概要について、共通理解、質疑応答、役割確認、担当ごとにミーティング 行動の具体的確認、問題点の洗い出し、現場確認、全体で各担当からの確認、変更事項伝達

1300 テント張り、施設整備

1330 研修②プログラム※

1800 夕食

5月4日(火)

0700 朝食

0800 研修③プログラム※

1200 昼食

1300 研修④プログラム※

1800 夕食

5月5日(水)

0700 朝食

0800 研修⑤問題点の洗い出し、今後の準備、プログラム開発、意見感想交流

1000 撤収準備

1200 昼食

1300 解散

※ プログラム

今回のキャンプにおけるプログラム案

(小菅村の気候、活動場所、活動許可、指導者の問題はある。)

山菜取り、コシアブラひこばえ採取及び移植、竹林整備及び筍掘り(夏のキャンプ用の工作資材及び燃料用)、竹による多人数手洗い場の設置、登山、間伐作業体験及び燃料確保

5. 第2回冒険学校スタッフ研修会実施記録より

2021.5.3~5 小菅村にて実施

(1) 参加者

黒澤友彦(事務局)、佐伯順弘、奈良優大(衛生班)、贅田隼人、小藪美優、橋本佑太朗(食事班)、宮坂朋彦、杉山亜美(保健班)、黒澤

東江 由本圭

(2) 実施内容

5月3日

- ・テント設営、山菜取り、山菜の下処理、川遊び、五右衛門風呂

5月4日

- ・ヤマメ捌き、散歩、白糸の滝散策、スウェーデントーチづくり、沢登り、五右衛門風呂、燻製づくり、衛生器具制作

5月5日

- ・テント消毒、撤収、風呂とトイレの片付け及び清掃、温泉

(3) 各班の確認事項**(食事班)**

感染リスクが最も高い分野であり、多少煩雑になっても、確実に感染対策を行っていく必要がある。妥協することなく、それぞれの項目について取り組んでいく必要がある。

① 食器は各自で固定

- ・従来も食器は貸し出していたが、コップも含め使用者を固定する。

- ・棚を準備し、各自の食器や体温計、歯ブラシなどを置けるようにする。

② 提供スタッフと調理スタッフを分ける

- ・提供スタッフは先に食事を済ませてから、落ち着いて食事提供を行う。

- ・提供スタッフのうち、一人は手洗い、消毒を徹底するよう監督する役割。

- ・食事係はトータルで3~4名で役割分担するのが望ましい。

- ・ヤマメや山菜など、事前にメニューの増える可能性を確認しておく。

③ おかわり

- ・提供スタッフが行う。

- ・なるべく食器に触れないよう注意。

④ 補食・おやつ

- ・使い捨ての皿や包みで提供する。

- ・補食はある程度提供時間を決める。
- ・おやつも食事も、事前のアナウンスを徹底する。

⑤調理場用アルコールの準備

- ・調理場で使用するアルコール(握って噴射するタイプ)で消毒を徹底する。

⑥ヤマメ捌き

- ・密集しないように配慮すれば通常通り行える。
- ・焼いているヤマメを勝手にいじらないよう、担当スタッフを決めておく必要がある。

(衛生施設班)

衛生関連で準備することは思いの外、多く感染症対策を求められる時期だけ強化していく班になると考えられるが、衛生施設班を位置づけた。密集した就寝が感染の大きな原因となることが考えられるため、1人用テントの準備とテント設営場所についても検討した。テント関係の準備、設営、撤収、食事及びトイレの消毒、衛生関連を担う班である。その他の施設関連、衛生物資補給なども担当する。

①雨天時の食事場所の確保

- ・雨天時について 雨天時はタープを張って対応する予定だが、今回は実際には行わなかったため、実際の動きは実際の動きは検討しておく必要がある。

②足踏み式アルコール

- ・足踏み式アルコールを製作、設置し、各所にペーパータオルも配備。
- ・頑丈なつくりのタイプAを2台作成。トイレそばの水道と、食事提供付近に設置した。
- ・各建物に一つずつあるとなおよし。
- ・簡易型のタイプBをトイレの個室に設置。
- ・必要に応じて量産と設置場所を検討する。

③テント

- ・個人用テントを試用し、複数張購入を決定。
- ・テントは1人1つで、他のテントへの出入りなし。養生テープで名前を書いておく。

- ・寝られない子、夜間のトイレ対応は、募集段階で注意しておく。

- ・夜間対応スタッフの場所とテントを決めておく。

- ・子供が緊急時に声をかけやすいようにしておく。

④テントの片付け手順

- ・使用後の消毒作業手順も検討した。(手順)荷物はB棟一階に置く。シュラフは物干し場に干す。銀マットはアルコールで拭いてからしまう。テント内は雑巾で軽く結露をとる。テントの底面を上にして、乾かす。アルコールをかけて、乾燥剤と共に密封する。

(その他、プログラム)

①山登り、滝を見に行く、星空観察など星空観察など

- ・密になる要素が少なく、会話も多くないので積極的に推奨。

②川遊び

- ・水に濡れると窒息の可能性があるので、マスクはない方が良いが、距離の確保が必要。観察スタッフを配置して、呼びかける。
- ・沢登りは可能だが、これもハードな場所ではサポートのために接触することが回避できないきないので、以前よりチャレンジさせすぎず、軽く遊ぶ程度に行う。
- ・人数を減らす(スタッフ3人子供5人くらい?)

③風呂。

- ・ドラム缶増設必須

④車で移動について

- ・マスク着用、窓開け、消毒、会話なし、間隔をあけて乗車、毎回同じ車で移動

6. こすげ冒険学校開催 2021年8月

2回の研修キャンプ(実証実験的キャンプ)により、自然文化誌研究会の活動としてのキャンプにおける感染対策の具体的な動きや意識の共有ができたと判断し、小中学生の参加者を募集するキャンプを開催した。(こすげ冒険学校 2021.08.05 - 11)

(1) こすげ冒険学校 2021 の計画段階での確認事項

①参加者（保護者）に伝えるべき情報

- ・自然文化誌研究会として、研修キャンプなどの準備をしてきたこと。
- ・冒険学校中には講じる感染防止策の内容。
- ・(リピーター向け) 今までの冒険学校より自由度が小さくなること
- ・発熱等異常がある場合の対処について⇒詳細要検討
- ・キャンセル時の対応について⇒キャンセル料はとらない。
- ・集団感染発生時の免責について
- ・感染および体調管理報告について虚偽があった場合の法的対応について
- ・新型コロナウイルスΔ株(インド株)蔓延時には緊急的に中止する可能性があること

②事前に集めたい個人情報

- ・開催2週間前からの体温及び体調管理の記録
- ・同居家族についての発熱およびPCR検査受検の有無について

③活動時の感染症予防対策について

感染症対策を講じてもなお感染のリスクが高い活動として次のようなものを想定する。

- ・参加者、助言者が長時間、近距離で対面形式となる活動

(例) ログハウスでのカードゲームなど⇒全面禁止

- ・参加者、助言者が密集する活動や近距離で組み合ったり接触したりする活動

(例) 川遊び、沢登り(水がかかると、呼吸ができないため、マスクの着用が不可能)対策

- ・活動回避、または、次の事項に留意しながら行う。
- ・一つの部屋に密集する活動は避ける。
- ・更衣室も換気・消毒を十分に行う。
- ・川遊び、沢登りについては、マスク装着

が呼吸の妨げになるため、マスクを外すことは問題ないが、観察者を置き、約2mの間隔をとる、向かい合っただけの大声をしないなどの感染予防の指導を行う。

- ・次の活動に移る前に必ず手指消毒、マスク装着の確認を行う。

・発熱等の風邪の症状が見られる時は、活動への参加を見合わせ、個人テントで休養するよう指導し、保護者連絡など必要な対策を直ちに講じる。

- ・参加者の健康・安全の確保のため、助言者。観察者が活動状況を直接確認する。

④就寝における感染症予防対策について

- ・個人テントでの就寝を例外なく行う。
- ・テントを引き払う時には、確実に消毒を行う。

・体調管理、健康維持のために就寝時刻を守らせる。

⑤食事をする場面における感染症予防対策について

- ・感染リスクが高い活動であることを自覚し、感染対策を厳に行う。

・調理要員を固定し、不特定多数が調理場に入らないようにする。

- ・調理要員の健康チェック、手指消毒を確実にを行う。

・食事に当たっては、飛沫を飛ばさないように各個人が間隔をとって食事をするように指導する。

・食事摂取時以外は確実にマスクを装着する。食事後の歓談時には忘れることが予想されるため、特に注意する。

・食事後等に、歯磨きや洗口を行う場合は、参加者、助言者がお互いに距離を確保し、間隔を空けて行うようにする。(換気については屋外なので問題なし)

- ・献立は配膳しやすく感染リスクを避けることを考慮する。

⑥清掃、消毒活動における感染症予防対策について

清掃、消毒活動は、キャンプ場内の環境

衛生を保つ上で重要であるが、基本的に助言者、指導者の中の専門要員によって行う。

⑦活動外時間における感染症予防対策について

・活動外時間の参加者の行動には、助言者、指導者の目が必ずしも届かないことから、参加者本人に感染症対策の考え方を十分理解してもらうための資料の配布、キャンプ初日にオリエンテーションを行う。

・トイレ使用については混雑しないよう感覚をとる指導をする。また、手指消毒を徹底させる。足踏み式のアルコールディスペンサーを数台配置する。

・会話をしている際にも、一定程度距離を保つこと、お互いの体が接触するような遊びは行わないよう指導する。

⑧キャンプ場への移動の感染症予防対策について

・公共交通機関を利用する場合には、マスクを着用する、降車後(または学校到着後)は速やかに手を洗う、顔をできるだけ触らない、触った場合は顔を洗うなどして、接触感染対策などの基本的対策を行うほか、できるだけ乗客が少ない時間帯に利用できるようにするなどの配慮を検討する。

(学校における新型コロナウイルス感染症に関する衛生管理マニュアル～「学校の新しい生活様式」～(2021.4.28 Ver.6)も参考にした。文部科学省 HP より)

(2) スタッフミーティング議事録より

2021.08.05

保健

・夜のイベントがないから早く寝る子が多い

・「マスク変えてる？」→朝はマスクを配る(マスクを変えたか確認)

衛生施設

・川遊び：更衣室は男女とも3人まで

・工作；手洗い徹底、片づけるところはスタッフが片付ける

・なるべく密にならないように

川

・今日：子供8人入水

・一人ひとり行動するよう呼びかけ

・スタッフの位置

・忘れ物に目を配る

・2回目入ってもよい

・「次にはいるひと」と声をかける係が必要

・風呂は燃えていてよかった

・検討：女子更衣室、子供は3人、スタッフを含め4人までOK、窓は開ける

・風呂→川に入る子がいる⇒川に行くときはスタッフを連れていく

食事

・麦茶は水筒に入れる(入れるのはスタッフ)

・おなかすいたには臨機応変に対応

・夜食、明日以降はお腹がすいたら声をかける方式

・マシュマロ：人にあげない、焼いているときはマスク

・飲み物：水筒に入れられるもの、ポカリ、

・おやつ：管理できているか確認、ゴミ袋の確認、

・食前消毒→食べる・ごみ捨てる→食後消毒→「消毒した？」確認

・アルコール消毒の個数を増やす

・コッヘル：配膳者を限定する、対面で食べない、しゃべらない

その他

・おっとりしている参加者要注意、直接声をかける、危険なことに気づかないことがある

・マスクを外しがちな子に注意

・手作りトランプ：持ってきちゃいけない理由を再度説明、カードゲームはやらない

・囲炉裏：囲炉裏に向かうのは4人、5人目「向き変えようぜ！」基本ルールを公平に。

・子供に目を向ける、「やりたいことがあったらスタッフに確認する！」

2021.08.06

保健

・排便が少ない参加者が多いが、2日目なので様子を見る

・虫刺され→ムヒぬる、竹工作でトゲが刺さる→トゲを抜いて消毒

川

・9時から寒い

・遊び方…タイヤをつかみ合っただけになっている→遊び方の確認

・スタッフの休憩を考えての時間配分

・一時間毎は目安。その子の体調に合わせて流動的に変更。

衛生施設

・着替えは自然と間隔がとれている。

・梯子を作った。→明日ペンキを塗って完成！

・トイレ掃除を毎日行う（今日はできていません。ごめんなさい…。）

・女子トイレの左側にトイレトイレットペーパーホルダを設置

・工作の前後に消毒を意識する

食事

・朝ごはん 6:30 から作り始めた

・スタッフ用にあたたかいもの（コーヒーやチョコレート）を準備！

・今日からある牛乳が人気！飲むスタッフが子どもの分も対応

子どもの様子

・ごはんが食べきれない（量が少し多いかも？）

・ホームシック

・初日から兆候もあった

・乗り越えていただこう

明日の天候

・雨の気配あり

・台所前のスペースにブルーシートを張った（雨除け）

・食事の分散を心がける

明日の活動の検討

・工作：距離をとってみんなで遊ぶものはありなのか（その場に応じて考えよう）

・雨を眺めてぼーっと過ごす

・自然に合わせて見つけていく（何かをしないといけないわけではない）

・無理はしない

ナイトハイク

・高学年の参加者ということもあり、歩くのが早め

・星をみて感動していたり、暗さに目を慣らしてみたり、とても楽しそうだった

・行ってよかったね！

虫取り

・帰りにミヤマクワガタ・コクワガタなどたくさん見つけて、満足そうだった

2021. 08. 07

保健

・治療 ぶよ：初めてなので腫れている様子を見ている 竹馬：まめ 治療

川

・天気が不安定だったため、7人が川に入る状況があった

→スタッフの数を増やして、距離をとって活動できていた

・川で離れて活動する場合、スタッフは全体に連絡をする

明日の活動

・滝を見に行きたい

人数が多い場合、車で行く。多い場合は、白糸の滝に歩いていく。

午後、参加者の意見を聞いて、人数を確認して検討

・釣りをしたい

・工作，対応できるときに声をかける

・虫取り

・星を見に行く際は、歩いて行ける程度気になること

・参加者同士のじゃれあいの対応→基本的には、声をかける。

衛生

・トイレ掃除

・タープを設置

・工作の時の消毒を心がける

食事

・朝食後、コッヘルを煮沸消毒

その他

・ドジャブリの雨を想定していたので心配だったが、手先を使ったり、多様な遊びができていたので密にならずに遊ぶことが出来た

2021.08.08

保健

・初日以降排便なしの参加者→初日のストレス

川

・沢登り：よかった
・お風呂：みんなで協力を引き続き
・カエルを探す子：沢足袋が必要。いける人がついていく。

衛生

・トイレ掃除
・工作でのマスク使用はやめさせる→暑い
ため、感染対策：離れて作業すれば可
・工作のアルコール消毒を引き続き徹底

食事

・牛乳を購入した
・おやつミルクティー：スタッフが配る
ようにする

明日の活動

・川：午前から。雨なら午後から。
・ヤマメ：午前にさばく。おやつとして提
供。バケツを用意する。
・虫取り：毎晩いくことになると思う

気になること

・女子トイレの便座、今回は直せないが2
つあるので大丈夫なほうを使う
・テントの整備：明日対応したい
・テントの浸水：参加者の住環境について
配慮、設営場所の排水力強化の必要
・体を休める、無理はしないように。

2021.08.09

保健

・治療 お風呂を炊くときに軽傷のやけ

ど：様子を見る、ブヨ3か所：ポイズンリ
ムーバーで対応、ノコギリの歯がはずれて
指にけが→道具の管理、使い方
川

・午後に6名、川に入った。
・明日は10時から川に入る(スタッフ協力)
衛生

・トイレトーパー不足→発注
・天候次第でテントの消毒
・落し物、工作の作品や材料、切れ端を放
置：もうすぐ捨てますボックスを設置

食事

・完食が続いている！
・鳥が手に入った→恐竜の卵をしよう！

ヤマメ

・よかった
・学内サークル「ちえのわ」の後輩育成◎
ナイトハイク

・ヘリポートまで行くと時間がかかった→
キャンプ場との連絡係を決めていくこと
明日の活動

・川：午前から。
・お風呂：新しい水
・釘ナイフ：要望があれば対応
・寝袋などを干す
・ヘリポートに行きたがったらやるかも
・夜、締めのお会

2021.08.10

保健

・治療：くつずれ：治療中、川で軽傷の切り
傷：治療

衛生

・テントの消毒
・トイレ掃除、トイレトーパー
・工作の片付け終了

食事

・イワナを天ぷら
・ドーナツをつくった

明日の活動

・帰宅の準備
・温泉～帰宅への動き確認

・片付けの手順確認

テントの片付け

- ①テント下のブルーシートを拭く
- ②テントのフライシートのみ剥ぎ取る,
- ③フライシート干す
- ④テント逆さまにして干す
- ⑤テント内部消毒
- ⑥ビニール袋に乾燥剤と共に入れる

(3)参加者の感想

・特に印象に残ったのはご飯と竹馬と川遊び。ご飯はすごくおいしかった。竹馬は乗れなかったけど新記録を出せた。川遊びは飛び込みが最初は足がすくんだけど今はできるようになったし、スタッフとも喋れて勉強になった。H子

・一番楽しかったのは工作のけん玉作り。難しそうだったけど、作ってみたら簡単で、家でもやってみたい。K子

・川遊びと薪割りと風呂焚き。そんなに川で遊んだことないから楽しかった。薪割りは今日始めたけど気持ちいいしよかった。風呂焚きは、火おこしからしようかと思ってたけど、マッチでつけて焚くのが楽しかった。T男

・今日は工作でペンダントを作った。印象に残ったのは川遊びとナイトハイク。ナイトハイクはお墓を通して怖かったけど星とかもみられてよかった。川遊びは、最初は冷たかったけど慣れてきてできるようになった。Y子

・今日は川遊び二連戦して、工作をして薪割りをして、やりたいこと全部できた。今年を振り返ると、印象に残ったのは川と工作と火起こしとY子の作ったパチンコ。川も工作も普段できなくて、ここでしかできないことをできた。虫取りが一番印象に残った。ミヤマのオスが1匹しか捕まえられなかったけど、メスがたくさんとれた。今夜がさいごのしょうぶ。Y男

・毎日なにかしら火を焚いていた。滅多に

できない職人的な遊びができてよかった。

H夫

・印象に残ったのは虫取りと川遊びと工作。虫取りはミヤマのオスが取れて嬉しかった。川遊びは合計11時間入れて嬉しかった。工作は、彫刻刀で掘った板を作ったので家に飾ろうと思う。M男

・印象に残ったのは川遊びと虫取りとカエルとり。水遊びも乗り気じゃなかったけどやっていたら楽しかった。Y太

・印象に残ったのは、川遊びと沢登りと火とか。川は、最初あまり飛び込みとかしなくてなんで飛び込みしているのだろうと気持ち分らずにいたが、やってみたら楽しくてバンバンやった。沢登りは登るのが難しかったし体力も使うし、最後の堰堤がすごかった。火起こしは毎日楽しいなと思ってつけていた。職人技が身についた。S太

・川遊びと竹馬とご飯が印象に残った。スタッフに水をかけたりするのが楽しかった。竹馬は、前よりも乗れるようになっていい経験になった。ご飯はいつも美味しくてたくさん食べられた。M子

・朝は楽しかったけど、夜は虫だらけなのが嫌だった。自由に飲み物が飲めないのも不便だったし、一日を長く感じたけど、1週間は短く感じたので、楽しい1週間を過ごせた。楽しいのがすぐ終わっちゃって悲しいけど、楽しかったということ。ずっとこんな感じだとストレスも溜まるのでちょうどいい。飛び込みが楽しかった。K男

・印象に残ったのはヒキガエルを捕まえたこと。2番目は川に飛び込んだことで、後ろ向きに飛び込んだりした。流れに逆らってみたりもした。川遊びも楽しかった。みんなと雑談して笑い合えたことも楽しかった。昆虫採集も、ゆうたを背中に乗せて腕立ても楽しかった。中学になると部活で忙しくなるかもしれないけど来たい。K助

・5回目の参加だったけど、いつもと違うこ

とがあつて、温泉とかもなく、でも今回は今回でとても楽しかった。川遊びもだいぶできたし、マッチをあまり使わずに火を起こせた。来年もできれば来たい。F子・川下りが一番印象に残った。オールは初めてだったけど上手く使えてよかった。Y斗・川遊びとか、工作とかをして、工作ではネックレスを作れたりしてよかった。川遊びはスタッフに水をかけたりチューブで流れたりして楽しかった。M美

(4) 「こすげ冒険学校」を終えて

前入りをして、テント設営場所の改修工事を行った。その作業に関わっては多くのスタッフによく頑張っていた。深く感謝したい。多くの学生に参加していただいたこともありがたかった。冒険学校を通して、若い力の才能や感性の輝きに圧倒されるばかりだった。今後どんなことができるのか、どんなことを伝えていかなければならないのか考えさせられた時間でもあった。やれることはまだまだあると気付かせてくれた。また、冒険学校に参加してくれた子どもたち、送り出してくれた保護者の皆さんにも感謝したい。当然、不安もあったことだろうと思うが、私たちの対策を理解していただき、信頼していただいたことに感謝したい。子どもたちが自分にとっての挑戦・冒険を積み重ねている姿を見られたことが私たちの取り組みの成果の1つであると感じた。この何人かがいつかスタッフとして参加してくれるかもしれないと思うと楽しみである。

事前に zoom での打ち合わせは有効であった。この状況でなくても、こういったことを続けていきたい。おそらく、学生は学生でつながり、そういった打ち合わせをしたのだろうと思うが、様々なグループで考えの共有をすることがよりよい冒険学校につながるのではないかと考える。

7. まふゆのキャンプ開催 2021年12月
感染症対策を緩めず、「こすげ冒険学校」に引き続き、「まふゆのキャンプ」を実施した。夏より参加者は少ないため密集は起こりにくいもののログハウスで集団就寝では感染リスクが高すぎる。しかし、気温が零下になる場所での1人用テントによる幕営では保温の面での不安が残る。そのような困難を抱えても、感染対策を十分取った活動となった。夏の「こすげ冒険学校(2021.08.05-11)」に参加したスタッフも多く、経験と共通理解を持つての「まふゆのキャンプ」となった。また、まだ様々な制限は継続するものの下に示す『冒険学校の基本的な考え方』を踏まえた活動とした。(2021.12.26-28)

(1) 『冒険学校の基本的な考え方』(NPO 法人自然文化誌研究会 H.P. より引用)

冒険学校では13年間(1988年~2000年)の歴史の中で、試行錯誤を繰り返して、内容に工夫を凝らしながら活動を続けてきました。その基本的な考え方は子どもたちの自主性を尊重し、行動を促すのではなく、行動を「待つ」という姿勢にありました。これは十分なプログラムを用意しながらも、選択は子どもに任せることです。極端に言えば、子どもは何も選ばず、森の中で一週間昼寝をして暮らしてもよいということでもありました。この考えは、現在の自然文化誌研究会の環境学習活動にも生きています。大まかにまとめると以下の通りです。

- ① 秩父多摩国立公園に隣接した農山村の自然・文化環境の中で、教育的配慮のもとに野外活動を行い、地域の自然・文化遺産を継承するナチュラルリストのジュニアリーダーを育成する。
- ② 安全が確保される限りにおいて、子どもの自主的な活動を尊重し、見守り、援助する。

- ③ プログラム選択の自由を可能な限り拡大する。これには子どもの発案による新しいプログラムと一緒に作ること、プログラムに参加しないで森の中で寝て暮らすことも含む。
- ④ 国立公園内での活動であるので、環境保全のためにロウ・インパクトを心がける。
- ⑤ 環境教育の研究普及活動の一環として、子どもと一緒に新しい自然接触・自然認識の方法を試行する。
- ⑥ 子どもが自然に抱かれて、心身を解き放ち、多くの友達を得て、満ち足りて家庭に帰ることを期待している。

(2) スタッフミーティング議事録より

2021. 12. 26

ルール確認

- ・トイレの水道の水量が多すぎるとトイレの水栓が止まってしまうので、少なめに
- ・カードゲーム等に関しては夏の冒険学校では禁止にしていたが、今回からはOK（積極的には勧めない）

今日の気づき

保健

- ・体調についてはみんな良好。ただ、薄着の子もいたりするので、寒そうなら着させる

衛生

- ・トイレのタンクに水が貯まるのが遅いので、様子を見つつゆっくり流す
- 薪
- ・明日はお昼前か午後にお風呂を炊く
- ・ピザ釜に関しては細かいご飯炊く用の薪などを炊き続ければ問題なさそう
- ・明日ヨシさんが薪を持ってきてくれる。

食事

- ・スプーンの準備が急だったので、今回は回収した
- ・スタッフはコーヒーなど飲みたかったら声かけて欲しい

おやつ

- ・今回の焼きマシュマロは成功だったが、感染症対策に関しては不安な部分もあった。

- ・どうしてもゲリラ的になってしまう

明日の事について

- ・朝食は7時スタート
- ・野鳥観察が8時半スタート（8時には準備完了）
- ・炭窯は10時スタート
- ・スウェーデントーチやりたい
- ・集合写真の撮影

2021. 12. 27

保健

- ・37.4℃の熱がある参加者あり。昨晚の寒さが原因。何度か起きてる模様。→寒さ対策のグッズなどを勧めても使わないことがあるので、勧め方を考える。

- ・お腹の調子が優れない参加者あり。→常備薬を飲んでいる

- ・水分補給が全体的に少ないので、声かけをしていく→明日は暖かい麦茶を用意する
- 食事

- ・夕飯とおやつの時間の兼ね合いが難しかった

- ・ミネストローネがかなり余ってしまっている

おやつ

- ・量がかなり多くなってしまった
- ・自分で作ってみるのは良かった

野鳥観察

- ・かなりの種類の鳥を見ることができた
- ・時間が1.5時間の予定だったが2時間に伸びてしまった

- ・地域おこし協力隊の方（2名）が来てくれた

炭出し

- ・2時間ちょっとかかっているなので、次回以降の時間の目安になるかな

- ・野鳥観察組との合流する流れもよかった

明日

- ・銀マ、寝袋は子供たちに片付けてもらう
- ・テントは消毒を実施

- ・ B棟で荷物のまとめ作業
- ・ 14時出発予定
- ・ 28日はログで就寝
- ・ テントは基本全て28日に畳んでしまう
- ・ ピザ釜を崩す

(3)「まふゆのキャンプ」を終えて

・ この極寒のキャンプに多くの学生スタッフが参加してくれたことに感謝したい。決して、こちらの都合でありがたいだけでなく、学生がこのコロナ禍で活動が制限され、課題やオンライン授業が詰まっている中でこの体験を選び、「体感」してくれたことがうれしい。ピザ窯製作の提案も軽い気持ちでの話だったが、思いの外頑張ってくれたスタッフのおかげで実現できた。これでまた一つプログラムが増えた。ピザ窯づくりから更にそれで作ることでできるものへと多岐に広がり、活動に幅ができるのはうれしいことだ。

・ 全体として再び感染が拡大しているのに、危機感が夏よりも希薄になっていたと感じた。ワクチン接種が広がったこともあるかもしれないが、ブレイクスルー感染もあるので、決して危機感をなくしてよい場面ではなかった。誰がではなく、自分が一番弛んでいたのかもしれない。夏も今回も感染がなかったのは(1月11日ころまで実際はわからないが)運が良かっただけなのかもしれない。

・ 衛生施設係として:例年なら、極寒の天候の中テントや囲炉裏端で寝るのはある意味、冒険的な要素を含んでいるが、今回はコロナ対策で個別就寝は外せないところだった。ならば、防寒対策も強化すべきだった。衛生施設係は防疫に軸足を置いているので、少し引いてしまったが、もっと積極的にテント就寝の指導をすべきだった。体力、判断力共に十分でない低学年を抱えるならばなおさら丁寧な指導が必要だった。使い捨てカイロの低温やけどを心配し、寝

袋から出したとも聞いた。学校現場だったら、当然予測し対応していたはず、年寄りの教員として情けない。寝袋は多いほど良いが、きつく重ねるのは逆効果。空間がないと保温力が下がるので、注意しなければならない。現場を確認していないので、そうになっていたかどうかは不明だが、マミー型2つと封筒型1つ、下は銀マット2枚敷きで大丈夫だと思われる。上には毛布とエマージェンシーシート。足元には布袋に入れた使い捨てカイロ2~3個。1個では足りない。テントの上にタープはないよりましだが、小菅の環境では劇的な効果は望めない。ペットボトル湯たんぽは入眠時には効果的。ログの中にテントを張る方式はA棟1階2張、B棟上下3張ずつならいけるので、換気&石油ストーブの案も検討の余地はあった。いずれにしても、テントなしで複数人がログで寝るのは感染防御の面からは推奨できない。

・ 高身長スタッフには寝袋が小さすぎたと思う。寝袋もへたっているものが多いので、すてるのではなく洗濯補修して使える様にした上で、大きめの寝袋を買うことも検討したい。もちろん冬用は高価でいきなり人数分買うことはできないが、スタッフの体調を考えるならば検討したい。もし、山をやるメンバーがいるなら、ダウンシュラフ、シュラフシーツ、シュラフカバーは無理して買った方がいい。冒険探検部時代からの装備をメンテナンスして大切に使っている自分は、それで足元にカイロを入れて、何の問題もなくテントでの就寝を過ごしていた。

・ 水分補給の重要性を説明し、取らせる、出させる指導をした方が良かった。→自分は健康上の理由により、常に白湯を飲んでしたが、全員が温かい飲み物を意識的にとるように仕向けるべきだったと反省。ドリンクバーの話も出ていたが、衛生施設班がやってよければ、一日中の飲み物屋さん

して待機もできた。暇なときは話をしたり、本を読んだり、工作をしたり、居眠りをしたりして、お客が来たら手順通り手指消毒しエプロンをつけて、飲み物を提供できたと思う。焚き火のそばで待機したいので、紙コップ提供が手軽でよい。あたためたスポーツ飲料が適している。更に、「夜のトイレもスタッフを起こしていいこと」と「必要なのがまんしないこと」をくり返し教えること、はきものも簡単に履けるサンダルのようなものを用意させるとより簡単にいける。

- ・計画はあったのに実現できなかった熱交換器による温水器は機材が手に入らず実現できなかった。次回があるなら何とかしたいと考えている。

- ・火起こしプログラム、竹料理プログラム、竹細工プログラム、バーナープログラム、簡易燻製プログラムを用意していたのだが、出すチャンスを逸してしまった。プログラムが他にたくさんあったので、出すまでもなかった。事前に提示しておけばよかったかもしれない。

8. 環境教育の灯を絶やさないために

新型コロナ感染症の蔓延のために多くの人が命を失い、様々な活動が制限され、教育の機会を失った。自然文化誌研究会の活動も同様である。しかし、制限されたからできないと諦めたりはしない。この制限の中で工夫し、いかに有意義な活動を作り出すことができるのかについて考える力を私たちは磨いてきた。その歩みの1つが今回の研修キャンプから活動再開への流れである。小中学生の素直な感性で自然と向き合える時期に、この環境教育プログラムに参加することは大変有意義なものであろう。ただ自然の中でその自然を体感する、ひたすら体感する、多くの人と関わる、生きるための基本的な要素(食べる、出す、寝る、動く)を味わい尽くす。こういった経験こ

そが、関わりが希薄になっていると言われる自然と私たちを改めて繋いでくれるものだ。もちろん、大学生にとってもこの活動は有意義なものになったに違いない。自然をどう感じるか、自然とどう協調するか、人とどう関わっていくか、自分をどう表現していくか、世界や地球をどう捉え、これからの自分の生活に生かしていくかなどに意識が向いたのではないだろうか。自然を感じることは、自然を考えることであり、人間を考えることであり、これから地球とどう関わっていくかを考えることであると思う。小中学生にとっても、高校生大学生にとっても、そして誰にとってもそれぞれのレベルにおいて感じることはあるのではないだろうか。将来的に自然との関わり方は人それぞれだろう。この環境教育プログラムがその入り口としての、そのきっかけとしての体験になるのではないだろうか。私たちはそのような視点の下、環境教育に関わっていきたいと考える。そして、そのための場を守り、そのための技術を磨き、その志を繋いでいかなければならない。まさにその場がこの自然文化誌研究会の活動である。今、地球を見渡してみると、道徳のない資本主義に踊らされた活動ではなく、本当の意味で自然、地球のあるべき姿を守っていくことが求められている。地球環境が様々な問題を抱えていることが叫ばれて久しいが、人類の共通理解として「人間も自然の一部であり、それなくしては存在できない。」ということが未だに認識されていないのではないかと心配になってくる。このままでは、近い将来、人類がこの地球の生命の歴史に終止符をことになってしまうのではないか。そして今、地球の生命の歴史に終止符を打たなくて済む未来の礎こそが自然を体感的に知る事であり、そのためにこそ、私たち自然文化誌研究会の活動があると思う。微々たる働きであろうとも、私たちはこの環境教育の灯を絶やすことなく、

活動していきたいと思う。

参考文献

- ・2020.12.26 28 小菅 研修キャンプ (宮坂朋彦)
- ・INCH GW 冒険学校 スタッフ研修会 (宮坂朋彦)
- ・こすげ冒険学校 2021.08 スタッフミーティング議事録
- ・まふゆのキャンプ 2021.12 スタッフミーティング議事録
- ・学校における新型コロナウイルス感染症に関する衛生管理マニュアル～「学校の新しい生活様式」～ (2021.4.28 Ver.6) 文部科学省 HP より
- ・『冒険学校の基本的な考え方』NPO 法人自然文化誌研究会 HP より

(参考画像)



アルコールディスペンサータイプB



完全個別テント



アルコールディスペンサー製作中



密集を避けた食器収納棚



アルコールディスペンサータイプA